

JAM第22回定期大会

リモートライブで初開催 質疑応答や議決も Web で



大会冒頭のあいさつで、一連の自然災害、COVID-19の蔓延によって亡くなった皆様に衷心より哀悼の意を表し、厳しい状況下で献身的な努力を続けられているエッセンシャルワーカーの皆様にご心より感謝と敬意を表した安河内賢弘JAM会長（写真はモニターを撮影）

JAM第22回定期大会は8月27日にJAM結成以来初めてWebでの配信リモートライブで開かれた。

JAM三役、大会議長など大会役員は東京港区・「友愛会館」を本会場として大会を進行し、新型コロナウイルス感染拡大防止として、役員、代議員・特別代議員など約300人が、それぞれの所属の地方JAM・県連事務所などでミーティングツールを使用して参加した。資格審査や賛成・反対・保留の議決などは電子投票システムを活用した。

大会議長には玉井景子代議員（東京千葉・JUKI労組／右下写真右側）・小田泰司代議員（神奈川県・ポッシュ労組神奈川・東京支部／同左側）が選出された。

第1号議案「2021年度活動方針に関する件」では、昨年の大会で決定した二年間の運動方針を補強し「ものづくり進化論Ⅲ」を策定するため、着手を始めることなどを確認した。

9本の議案は、4人の代議員から意見・要望を受け、それぞれ、満場一致・賛成多数で議決した。



進行・発言時はマスクを取って



変革・再生・創造 この難局を力強く団結してガンバロー